

キリスト  
日本基督教団

# 京都教区ニュース

THE UNITED CHURCH OF CHRIST IN JAPAN - KYOTO DISTRICT



発行人 よこた あきのり 横田明典 編集人 あさの けんいち 浅野献一

今総会期 第1号 発行 2026年2月6日

〒602-0917 京都市上京区一条通室町西入東日野殿町394-2 京都教区事務所 / Eメール info@uccj-kyoto.com

TEL 075-451-3556 / FAX 075-451-0630 / 教区HP <http://www.uccj-kyoto.com>

## お詫びと自己紹介を兼ねて

京都教区総会議長 滋賀地区 おうみかねだ 近江金田教会 よこた あきのり 横田 明典

京都教区ニュースは、最近では年2回の発行となっています。しかし私の原稿が遅れに遅れたため、第1号の発行がこんなに遅くなってしまいました。そのため今年度は教区ニュースの発行を1号のみとさせていただくことになりました。早々に原稿をいただいた皆さんや、教区ニュースを楽しみにしている方々をはじめ、皆さんに多大なご迷惑をおかけしました。申し訳ありませんでした。今後はこのようなことがないように、十分に気を付けたいと思います。

前教区議長が今年の3月末に主任担任教師を辞任したため、4月以降は副議長であった私が議長代行となり、5月の教区総会に臨みました。特に今年の総会はアメリカンボード京都宣教150周年記念礼拝、記念講演があり、さらに三役選挙、常置委員選挙と盛りだくさんの内容であったため、総会の議事が時間内に収まるかどうか心配をしていたのですが、幸いにもすべての議事を終えることができました。皆さんのご協力に心から感謝いたします。

その総会において私は議長として選出されました。私などが議長を務められるのか甚だ疑問ですが、選ばれた責任もありますので、この2年間、できる限りの務めを果たしたいと考えています。

私のことをご存じない方もおられると思いますので、まずは自己紹介をしたいと思います。1964年に生まれ、兵庫県の西宮で大学卒業までを過ごし、その後農村伝道神学校を卒業。担任教師として最初の

任地は、神奈川教区の紅葉坂教会でした。その後2000年の3月から滋賀地区の近江金田教会の主任担任教師として遣わされています。26年目です。妻と中学1年生の娘との三人暮らしです。

教区との関わりは、赴任当初から部落差別問題特設委員会（現・部落解放センター運営特設委員会）の委員となったことに始まります。長くいるとお役がいろいろと回ってきて、滋賀地区長、宣教部委員長などをさせていただいているうちに、2008年度から常置委員となり、2019年度の総会で副議長、そして2025年度の総会で議長に選ばれた、ということになります。

2019年末からのコロナ禍は、教会にも大きな影響を与えました。礼拝出席の制限をしたり、オンラインにしたりと、それぞれの教会で工夫をされましたが、その影響はコロナ後の方が大きいのかもかもしれません。時間を戻すことができないように、教会をコロナ以前の状態に戻すことは無理でしょう。今、私たちが考えなければならないのは、「これから何をしていくのか」だと思います。コロナ禍を経た教会は、これから過渡期に入っていきようにも思います。ひょっとしたら思い切った変化が求められるかもしれませんが。しかしどのような変化であったとしても、希望を失わないようにしたいと思います。今、私たちにできる変化が御心に適うものとなるよう祈りながら歩みたいと思っています。

## 教区 2025年度 新任教師の自己紹介

### 自己紹介&按手を受けて

京都南部地区 らくさい 洛西教会 うめだ れいな 梅田 玲奈



この度、平安教会で行われ  
ました京都教区総会にて、洛西教  
会の担任教師として按手を受け  
させていただきました。私は広  
島女学院中学高等学校で聖書と  
出会いました。その後、同志社  
大学神学部で学ぶ道が備えられ、

大学在学中は洛西教会に通い、洗礼を受けました。  
6年間の学生生活のうち、最後の1年間は平安教会  
に教会実習でお世話になりました。小笠原純牧師、  
村上みか先生、教会の皆さんに祈られ、支えられ、  
導かれ、献身しました。大学院を修了してからは、  
横須賀学院中学高等学校、広島女学院中学高等学  
校で、教務教師を務めました。広島在職中は広島東  
部教会の月下星志牧師、広島流川教会の向井希夫牧  
師に大変お世話になりました。この春から、洛西教  
会担任教師に就任し、平日は神戸市にあります松蔭  
中学校・松蔭高等学校に勤務しています。

按手礼を受けるにあたり、教団はその成立過程  
において合同教会であること、戦責告白の上に成り立  
ていることを自戒を込めて、改めて、引き続き受け  
止める者でありたいと思います。イエス・キリスト  
の生きざまにならい、京都教区の宣教方針策に従  
い、宣教の一端を担うことができる教師になりたい  
です。

またそのために、聖書と向き合い、宣教の現場を  
通し、教区との繋がりのなかで歩みたいと願います。  
私は小さく、貧しい者ですが、主の赦しを乞い、祈  
りのうちに、皆さんと共に歩みたいです。北米宣教  
師団、京都教区宣教150年の記念の年に、大変お世話  
になった京都教区の皆さんに祈られ、受按の機会が  
備えられ、そして母教会である洛西教会の担任教師

として立てられたことを改めて主に感謝いたします。  
これからもどうぞよろしく願いいたします。

### 私の宣教方針・ミッション

京都南部地区 きょうと 京都教会 おおばやし えいき 大林 叡貴



日本基督教団京都教会担任教  
師の大林叡貴（おおばやし え  
いき）と申します。25年5月の  
教区総会で正教師となりました。

さて、タイトルにも掲げた私  
の宣教方針や、神様から与えら  
れたミッションというものは何  
かと申しますと、それはやはり、「障害を持っている  
人にも、そうでない人にも、またクリスチャンに  
もそうでない人にも、ヨハネ福音書9章2節にある  
『神の業がこの人に現れるためである』というイエ  
ス様の言葉を伝えること」で、これは補教師となっ  
た時から変わりません。イエス様は、聖書の記述か  
らして全盲と考えられるある人に対し、先ほどの言  
葉を発せられます。その人がなぜ目が見えないのか  
を問うて来た弟子に対する答えとしてであったので  
すが、当時、障害はその人や先祖の罪が原因とい  
う考えが当たり前だったのを踏まえた弟子の質問に答  
え、その考えを全否定されたのです。その人を肯定  
し、「生かす」言葉に他なりません。現代でもある  
という、障害はその人や誰かのせいなのか？とい  
う問い。これにNoと答えられたイエス様の言葉を  
伝えることが、神様からのミッションと考えます。

さて、今年度の京都教会について触れておきま  
すと、今年度は主任教師を欠いた状態で、塚本牧師が  
主任教師の代務者として毎月第2週に来られて説教  
を担当され、役員会を行っています。それ以外の週  
の礼拝説教は、井殿副牧師が第1・第3週、私が第  
4週の担当となっています。私はまだ正教師となっ

たばかりですから、学ぶことが多くあります。各種式のやり方、葬儀などの手順、などなど。

来年度には正式に主任教師をお迎えしますが、私は今後何年この教区・教会にいるかはわかりません。しかし、教区・教会でより多くのことを学ばせていただきながら、次の教会に呼んでいただくための準備をしたいと思っております。その間に、多くの教区の皆さんと関係を持てたらよいものです。ぜひ、お声掛けください。

引き続き、よろしく願いいたします。

## 新任教師の自己紹介

京都南部地区 京北教会 馬場 詩織



4月より京北教会に赴任しました馬場詩織です。名古屋の地で15年の日々を過ごしてまいりました。

京北教会は116年もの長い歴史のある教会で、アメリカ・メソジスト教会の伝道によって生まれました。非常に美しい木造の会堂が自慢です。この会堂の価値を教えてくれたのは、信徒ではなく、むしろ外部から来た方々でした。ふらりと立ち寄られた建築家の呼びかけから、京都モダン建築祭への参加をお誘いいただくことになり、多くのひとを教会にお迎えする機会が与えられようとしております。木造の会堂や広い庭の維持は高齢者ばかりの群れでは少々困難ですので、周囲の教会の皆さまに協力をお願いしたり、外部の方々をお迎えしたりして、「みんなの教会」にしていきたいと思っています。

名古屋でも経験したことですが、教会がどんどん力を失っているように見えます。しかしその一方で、排外主義や争いや分断によって苦しむ人、孤独を感じる人の多いこの世界において、教会がなすべきことはたくさんあると思います。

いろいろできることを探しながら、新しいことに挑戦していきながら、これからも歩みを続けていく

教会となっていければと願っています。

どうぞよろしく願いいたします。

## 京都復興教会に遣わされて

京都南部地区 京都復興教会 佐々木 良子



はじめまして。私は今年3月、ドイツでの9年間の任を終えて京都に着任いたしました。2003年、東京聖書学校を卒業後、東京教区・東支区に属する小松川教会（江戸川区）にて伝道師、担任教師、主任牧師として通算

13年間お仕えして参りました。その後、2016年4月、日本基督教団・世界宣教委員会より派遣宣教師として、ドイツ西部に位置するケルン・ボン日本語キリスト教会に遣わされました。

ドイツでは主に依り頼むことの実体験、また、日本では到底出会う機会がなかったような方々とのご交わり等を通して、かけがえのない多くの貴い経験をさせて頂きました。そして言葉も風習も違う海外の地で長きに亘って心身共に支えられたのは、主のお導きは勿論のこと、教会の方々や遠く離れた日本での篤いお祈りと共に経済的にも支援して下さった大勢の方々があったからこそといえます。特に日本で捧げられたお祈りは肌で実感し、とても励まされたものです。

今後は、これまで培ってきたことや貴重な経験を生かして何ができるのか、どのようなことをしたいということではなく、初心に戻って主の招きと新たなお導きに応答して参りたいと願っています。また、遣わされた地と教会を愛し、教会の方々の助けを頂きながら、主の御前に立たされた一人の信仰者として教会の皆様とご一緒に歩んで参りたいと思っています。

京都復興教会は幼稚園を併設しており、来年2月には創立80周年を迎えようとして新たな一步を踏み出す準備をしています。主が今、教会になさってい

ること、そして成し遂げようとしておられることに思いを向けて歩んで参りたいと思っています。初めて京都の地に遣わされた私ですので右も左も分からない者です。これから主にあるお交わりの中でどうぞよろしく願いいたします。

## 主に従って

京都南部地区 京都教会 井殿 謙



2025年4月より、京都教会副牧師となりました、井殿謙（いでん ゆずる）です。

教会に仕える者としての歩みの中には、これまで不安や迷い、そして自分の弱さを感じることがありました。しかしその度に、教会での豊かな交わりの中で、教会の方や先生方の支え、励ましに力をいただきました。支えてくださる方々の言葉と祈り、そのような交わりが与えられている恵みにいつも感謝しています。そして、「恐れることはない」と語りかけてくださる主の御言葉に支えられて歩みを進めてこられたことを思います。

この御言葉が語られるルカ福音書5章の「漁師を弟子にする」話は、私の好きな聖書箇所です。夜通し働いたのに魚は取れず、肩を落として徒労の中にある漁師達のところに主は来られ、「網を下ろして漁をしてみなさい」との御言葉が語られます。自分の限界や弱さ、不安や迷いに向き合わなければならぬ時に、主は私たちの元に来てくださり、御言葉を与えてくださいます。その御言葉に向き合い信じて従うことで、私たちが信じていなかったところまで導かれていきます。主が招かれる時、招かれる者に求められるのは、ただ「お言葉ですから」と網を下ろしてみるだけです。

私は自分の弱さを見つめてしまうことが多い弱い者ですが、主に従う者として、不安があっても、いつも主が「恐れることはない」と、欠けの多い器を召し出して用いてくださる、その愛と恵みを大切に

歩んでいきたいと思っています。

京都教区での働きは今年度1年間だけという短い間となりますが、皆さまとの交わりを大切にしつつ、神さまが良い方向へと導いてくださることを信じて、共に歩んでいければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

## 自己紹介

滋賀地区 彦根教会 吉田 慈



新任ではないのですが、岡山から5年ぶりに京都教区へと参りました。どうぞよろしく願いいたします。とは言え初の滋賀県。そして雪の降る彦根での生活は、晴れの国岡山、温暖な気候の瀬戸内から比べると、冬

を引きずるような寒さからのスタートでした。風の強さも、地元群馬のからっ風並みで、びっくりしました。岡山では、瀬戸内海の多島美に癒されながらも、平日は別の仕事に出、実態は兼務の代務教会との生活を送っていました。その中でも、たくさんのお出会いと縁に生まれ、また会社・工場訪問、土木・建築工事含め、たくさんのお経験を積むことが出来ました。

彦根に来まして5年ぶりの保育園での働き。勤を取り戻しながら、まだまだ出来ませんが、体力を付けながら、子どもたちと遊んだり、お散歩に出かけたりする機会を、たくさん持ちたいなあと思っています。子どもたちはすぐに受け入れてくれて、「よっしー先生！」「園長先生！」と声をかけてくれ、タッチをしてくれたり、登園降園の際には声をかけてくれたり、職員室まで会いに来てくれたり、とてもホッコリする時間です。

また岡山から岡山名物の桃・葡萄・檸檬の苗木を持ってきて、畑を借り、植えました。芹川そして琵琶湖の近く、遠くには鈴鹿山脈を望む、とてもよい所です。この景色は、故郷を思い出すような雰囲気

があります。新島襄が伝道されたその歩みと、ヴォーリスさんが船で琵琶湖を縦断横断し、伝道された雰囲気を私も味わいたいと思っています。教会は150周年を目前としています。ヴォーリス建築の会堂、そして100年以上前の西川オルガンを大切に、新たな牧者と共に、新たな歩み出しをします。この地域にあって、地区内にあって、教区の諸教会と共に互いに祈り、覚え、助け合っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

### 就任のご挨拶

どうしやだいがくしんがくぶ 同志社大学神学部  
すぎた しゆんすけ 杉田 俊介



同志社大学神学部の教員に着任した杉田俊介です。今年度は「組織神学入門」や「キリスト教倫理」などの授業、学部ゼミを担当しております。大学の専任教員となるのは初めてで、当初は「何が分かっていないのかも分からない」という感覚でしたが、紫陽花の咲く頃から、ようやく少しペースがつかめてきた気がします。先日は「宗教と社会福祉」の授業の一環として、止揚学園や東九条でのフィールドワークに参加しました。学生の皆さんと共に、私自身も多くを学んでいます。

2003年から2012年まで、同志社大学神学部および

神学研究科に学生として在籍していました。在学中は小原克博先生のゼミに参加し、多くのことを教えていただきました。専門はキリスト教思想、日本のキリスト教思想家の研究です。なかでも、諸宗教の神学、キリスト教の文脈化、宗教と国家の関係といったテーマに関心を寄せています。博士論文では、滝沢克己の思想、特に宗教間対話論と天皇制論について批判的に考察しました。大学院修了後は関心を広げ、組合教会牧師・柏木義円の国家主義批判と「神の肖像」論との関係についても研究しています。

1977年生まれです。1990年に日本バプテスト連盟札幌バプテスト教会で洗礼を受け、2008年に日本基督教団仁川教会（兵庫教区）へ転会しました。2012年に教団教師となり、以来、出身教会である仁川教会にて伝道師および牧師として仕えてきました。仁川教会では、茂洋先生、中野敬一先生、高森昭先生から牧会について多くの教をいただきました。この経験を生かし、神学部と教会とをつなぐ働きができればと願っています。

今年度も引き続き、仁川教会にて代務者として仕えていますが、昨年度までのようなはたらきが難しくなり、心苦しく感じています。仁川教会の宣教のためお祈りください。

妻と娘がいます。娘は、新島襄の妻と同じ名前（八重）です。

自らの乏しきや貧しきを痛感することも多々ありますが、神学教育、牧会者養成、神学研究を通して、主のみわざのために力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 性差別問題連絡会 全国会議報告

性差別問題特設委員会 委員 同志社国際中学校嘱託講師 さわだ かほ 澤田 果歩

2025年6月22日(日)～23日(月)にかけて、日本基督教団 性差別問題連絡会の第20回全国会議が開催されました。今年開催教区は大阪教区で、会場は日本基督教団の天満教会。全国各地から多くの方が

集まりました。

私は京都教区の性差別問題特設委員会からの派遣という形で参加をしました。仕事の都合上1日目のみの参加となりましたが、その中で見聞きし、考え

たことを報告したいと思います。

今回の全国会議の主題は「ええ加減にせえ（性）、家父長制 ～このモヤモヤを誰かに伝えたい～」というものでした。家父長制に対する「ええ加減にせえ」という関西弁の強い語感に、「性」と「家父長『制』」という言葉を重ね、韻も踏んだ印象的なタイトルです。家父長制や性差別に対する怒りや違和感を、力強くもユーモラスに表現していると感じました。

1日目はこの主題に沿って、異なるフィールドで活動する4名の方から発題がありました。社会や教会、家庭や学校など、さまざまな場に存在する性差別や家父長制の現状と課題、それに対する思いが語られました。4人の方からの発題ということもあり、情報や視点は多岐にわたり、すべてを完璧に受け止め切れなかったかと問われると自信はありません。しかしそれは同時に、私たちの身の回りに、性差別や家父長制について考えなければならぬ場や出来事が想像以上に多く存在していることの表れでもあると感じました。発題者の方々が共有してくださった問題意識や思いを、それぞれの場に持ち帰り、考え続けていく必要性を強く覚えました。

発題後には、近くの席の方々と少人数で分かち合うグループトークの時間がありました。発題を通し

て感じたことや考えたこと、新しく知ったことなどを語る中で、自分の考えが整理されていく感覚や、他の方の視点から新しい気づきを得る瞬間がありました。グループトークの後には、1日目のみ参加の発題者の方への質疑応答も行われ、直接質問や意見を交わすことができました。

今回の全国会議に参加して改めて感じたことは、どんな活動・生活の場においても、自分が「当たり前」「仕方ない」と受け入れている文化や習慣の中に、性差別や家父長制の影響が潜んでいることがある、ということです。それは「伝統」や「善いもの」として受け継がれてきたものかもしれませんが、その陰でしわ寄せを受ける人や、不当な扱いを受ける人がいるのであれば、そうした「伝統」には見直しが必要ではないでしょうか。その存在に気づき、構造を再考していくことが、変化の第一歩になるのではないかと感じます。一人で何かを変えることはとても難しいことですが、こうして多くの人が集い、連帯を確認する中で、変化の可能性と力が与えられるのだと思いました。

限られた時間の参加ではありましたが、今回得た学びと気づきを自分の生活や活動の中でも活かしていきたいと願っています。

## 「CGMBと京都教区との第9回協議会+BazaarCafé Project」報告

京都南部地区 むろまち 室町教会 あさの けんいち 浅野 献一

2025年12月4日(木)午後。バザールカフェにて、「CGMBと京都教区との第9回協議会」が行われました。

CGMB (Common Global Ministries Board) は、アメリカ合同教会とディサイプルスが設立した「共同世界宣教局」です。世界の社会正義を求める活動に「神の宣教」を見だし活動を展開されています。一昨年、バザールカフェと京都教区の三者にて「一般財団法人クラッパードイン」を設立し、また今年度の京都教区定期総会では、「アメリカンボード京都宣教150周年記念」の喜びのときを共にしました。

「クラッパードイン」に関わる話し合いを2017年から毎年続け、9回目の協議会。その間に互いに結ばれ、密にされた関係より、これからの宣教協力・パートナーシップをどのように進めていくかなどのブレインストーミングを含む話し合い・分かち合いの熱い時間を共有しました。

CGMB 太平洋・東アジア担当幹事・デレック・ダンカンさんとジェフリー・メンセンディークさん、財団法人代表代表理事・木村良己さん、バザールカフェ活動委員の他谷尚さんと後宮嗣さん、あと教区三役での協議。

「京都教区とCGMBの間での宣教協力の共有」

が確認され、これからも引き続き毎年協議会・話し合いを行うことが確認。

他、宣教基本方針（ミッションステートメント）は自ずと社会の課題へとむかうこと、また平和へのコミットメントの大切さなど共有。継続的な教会と教会をつなげる関係構築のためのアイデア（インターン派遣、Zoom 活用など）。個別の教会同士が交流し関係を深めていく在りようの挑戦。京都教区各伝道所・教会がCGMBとの関係を肌身に感じられる「何か」の模索。マーシャル諸島の課題など、話は多岐に。しかし共にヴィジョンを描きつつ、最

後には、バザールカフェ関係の皆も集まり、美味しいガオマンガイに舌鼓を打ちました。



## 総会報告、選挙（三役、常置委員）、声明など

京都教区総会議長 滋賀地区 おうみかねだ 近江金田教会 よこた あきのり 横田 明典

2025年5月に行われた京都教区総会については、教区総会報告が各教会に配布されていますので、そちらをご覧くださいと思います。今回は、その総会後の報告をさせていただきます。

第1回の常置委員会において、書記として選ばれた松下道成教師、信徒常置委員として選出された吉見恵子さんから辞任の申し出があり、常置委員会はこれを承認しました。書記に関しては教区規則に則り、常置委員の中から選挙し、浅野献一教師を書記として選出しました。これによって常置委員2名が欠員となったため、教師、信徒とも1名ずつを繰り上げ当選とし、堀江有里教師、松野正信さんを常置委員としました。また推薦常置委員として教師1名、信徒2名を選出し、安藤昭良教師、今井恵一さん、高田緑さんを常置委員としました。以上のように三役に17名の常置委員を加えた20名で常置委員会を組織したことになります。なお常任常置委員は、教区三役に加え、富増献児さん、上田圭子さん、谷村耕太さん、横田法子教師の7名としました。

今年度の常置委員会は、議長の私は前年度に副議長の経験がありますが副議長、書記は初めての三役ですし、常置委員17名のうち9名が初めての常置委員ということになりました。そこで常置委員会での今後の協議をスムーズに進めるために、まずは課題の共有のためのオリエンテーションを最初に行いま

した。教区センター移管、クラッパードイン、教区改革、教区予算（負担金）など、必要と思われる内容について、それぞれ説明をし、質疑応答の時間を取りました。これで十分というわけではなく、折を見て何度か説明しなければならないと思いますが、これらのことから現在の京都教区で協議すべきことをわかっていたいただくために必要なことでした。

ここ数年の京都教区総会において、教会への負担金が教会財政を圧迫しているとの声をよくお聞きしました。もっともなことだと思います。少子高齢化やコロナ禍の中で現住陪餐会員や礼拝出席者の減少に加え、教会全体の求心力が低下する中、教会会計における負担金の占める割合が大きくなっているのは、どこの教会も同じだろうと思います。

教区としては、予算総額を減らすことで負担金を抑えようとしてきました。2014年度の教区予算は約4122万円でしたが、コロナ禍もあって予算を減額し、2024年度には3011万円と、27%の減額をしてきました。これに加えて2024年度には「負担金軽減措置金」として250万円を教区会計に繰り入れ、それぞれの教会への負担を減らそうとしてきました。まだこれでも十分ではないかもしれませんが、更に予算を絞ることを考えていますが、教区予算削減もそろそろ限界が来ているかと思っています。

また2024年の教区総会において、こうした教勢低下を解決する術を教区でも考えてほしいとの声がありました。常置委員会ではこれを宣教部に諮問し、その答申を受けて小委員会を設置することとしました。常置委員会下の小委員会なので総会での承認は必要なかったのですが、教区総会での問いかけであったため、総会決議としたいと考えたからです。ただ名称の問題等で議論が難しくなり、常置委員会としては議題を取り下げることとしました。この後、常置委員会では更なる協議をして、名称を「広報研究小委員会」として委員会を立ち上げ、すでに1回目の学習会（広報ラボ）を行いました。これは、教会の存在をどう広報（宣伝）していくか、という技術的な面を考えていくための委員会です。なかなか教会に人が来ない、来られても継続性がない、そうしたことを少しでも防ぎ、教会に人が集まるための工夫を考えているところです。これは継続して学習会を開く予定にしています。

今年度の常置委員会は、2年任期のうちの1年目ということもあり、常任常置委員の選出や、小委員会の委員の確定などをする必要がありました。またこれは毎年のことですが、教団の教師検定試験受験者のための協議会を年2回開催しています。締め切りの関係で常任常置委員会において推薦を決めています。韓国基督教長老會大田老會との交流プログラムについては、今年度は10月24日(金)～28日(火)の日程で行われました。今年度は日本から韓国への派遣で、5名+通訳1名の6名を派遣しました。2026年度は韓国からの訪問を受けることとなります。また交流30周年(2028年)を見据えての準備が始まっています。1月26日(月)～28日(水)の日程で実務者会議が韓国で行われます。政治的な状況は日に日に変化しますが、人的交流は絶えないようにして、交流を続けたいと願っています。

2019年度の総会において「教区改革原案をもとに教区機構・財政改革を検討する件」が承認されました。しかしコロナ禍が始まり、常置委員会では協議ができない状態が続いていました。皮肉なことに、コロナ禍によって財政は縮小せざるを得なくなり、財政改革に関してはある程度の結果が出たように思っています。残るは教区機構です。当時の原案によると、

教区の名称変更、常置委員定数削減、教区機構を全体で5部にわける再編、が主な項目となっていました。今常置委員会では、定数削減について協議を始めています。ただ議論の中で常置委員の選挙のあり方についてもご意見をいただき、それも含めて現在協議中です。5月の総会までに間に合わないかもしれませんが、議論の結果をお待ちいただければと思います。

最後に再度、三役・常置委員のお名前を記しておきます。(敬称略・下線は常任常置委員)

(議長) 横田明典 (副議長) 小笠原 純

(書記) 浅野 献一

(信徒常置委員) 今井 恵一 上田佳子 高田 緑

谷村 耕太 冨増 献兒 原田 潔

堀井 忠 松野 正信 山下 容子

(教師常置委員) 新井 純 安藤 昭良 熊谷 沙蘭

平山 正道 堀江 有里 山下 瑞音

横田法子 米倉 渚

## 京都教区総会2025の声明

### (議案27号声明)

**日本学術会議の自主性・独立性・自立性を危うくし、「科学研究の軍事転用」を容易にしかねない「日本学術会議法案」の廃案を強く求める声明**

現在、参議院で審議されている「日本学術会議法案」(以下、「法案」)に、日本学術会議の自主性・独立性・自立性が損なわれる危惧を強く抱き、「学問の自由(憲法23条)」、「表現の自由(憲法21条)」をも侵害しかねない内容であるゆえに強く反対し、廃案を求める。

まずもって、この日本学術会議の必要のない組織改編議論の元となった2020年の6名の方への菅義偉元首相による「任命拒否問題」の任命拒否理由の開示を改めて求める。また日本学術会議との信頼関係が損なわれた中で、「法案修正」の「日本学術会議第194回総会の声明および決議」の声にも耳を貸さずに進められている審議に、ただ驚くばかりであり、ただちに法案の撤回を求める。

まずもってなされるべきは、「任命拒否理由の開示」であり、このような日本学術会議の「自主性・独立

性・自立性」を損ない、平和を脅かす危険のある組織改編ではない。

日本学術会議を「法人化」することによって、一見、国からの「独立性・自律性を高める」と表向き見せかけて、その内実は政府がその運営・人事に「介入しようと思えばできる仕組みがいくつも組み込まれて」おり（「選定助言委員会」、「運営助言委員会」、「監事」、および内閣府に設置される「日本学術会議評価委員会」）、独立が担保されないことに強く抗議する。また新たに会員の「解任」の規定を追加し、政府答弁で「特定のイデオロギーや党派的主張を繰り返す会員は解任できる」（坂井学・内閣府特命担当相）と語っており、「表現の自由（憲法21条）」および「思想、良心の自由（憲法19条）」に抵触する恐れがあり、到底看過できない。

日本基督教団は、十五年戦争の戦時下において国と共に戦争を遂行した過ちと罪責を深く顧みるがゆえに、『科学研究の軍事転用』を容易にしやすくするような法案の成立は到底看過できない。

むしろ科学・研究は、武器の製造・開発、軍事利用のためではなく、土を耕し、いのちを生き、人間と環境のより良い共生のために用いるべきと、わたしたちは考える。武器によって脅しあう抑止、いのち奪う兵器開発、製造ではなく、まことの「平和」を望む。

「彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない」（イザヤ書2章4節：新共同訳）

京都教区総会は歴史の反省の上に立ちつつ、主イエスにあって、武器を持たず、威嚇しない「いのち」の側に立つ。また、科学者が戦争の反省の上に「平和的復興並びに人類社会の福祉への貢献、学術の進歩への寄与を誓って」歩んでいる現日本学術会議を強く支持し、「自主性、独立性、自立性」を危うくしかねない「日本学術会議法案」の廃案を強く求める。

2025年5月17日 日本基督教団 京都教区  
第89回（合同後第59回）京都教区 定期総会

## 「教会と社会」特設委員会の声明

### 死刑執行に強く抗議し、 死刑廃止を求める声明

内閣総理大臣 石破 茂 様  
法務大臣 鈴木 馨祐 様

日本基督教団京都教区「教会と社会」特設委員会は、去る2025年6月27日に、東京拘置所の白石隆浩さん（34歳）に死刑が執行されたことに、強く抗議いたします。

わたしたちは、人権と人間の尊厳を踏みにじり、また神から与えられている「いのち」そのものに要不要の審判を下す死刑制度を、到底容認することはできません。

死刑の執行から発せられる国からのメッセージは、国家はいのちを殺しても良い、不都合な存在を社会から排除、抹殺しても良いということに他なりません。死刑に犯罪抑止の効果がないことはすでにあき

らかです。

わたしたちが求めるものは、被害者、ご遺族の方々に寄り添った生活・経済面、精神・心理面でのリハビリ・回復とケアに他なりません。それには加害者のやり直しの機会、罪の償いの機会が必要です。同時に被害者家族への手厚い精神的経済的補償がなされるべきであり、償われる機会、生き直しの機会を設けること、同時に、加害者家族が偏見に追い詰められず、安心して生きられる社会を創出することです。

そのような社会・世界は、一人ひとりのいのちが尊ばれ、殺されないという基盤の上に成り立つものであると信じます。

殺すことによって、何もかも癒されず、何もかも生かさず、憎しみと恐れ、疎外のみが増大し、希望を生み出しません。どのような理由付けも、いのちを奪うことに、正当性を与えません。

日本基督教団総会は、1982年、「日本基督教団は、日本国家による死刑執行の中止を求め、死刑制度の廃止を訴え、裁判所は死刑判決を下すことのないよう求める」との決議をしました。

今一度わたしたちは、「いのち（生）への畏敬」に立ち、回復と生き直しを粘り強く求めることこそが、あらゆる暴力と破壊から解放される「生きられる世界」をつくりだすことにつながると、国家による殺人である戦争に加担した歴史の反省に立つキリスト者として、今、強く訴えます。

日本国が死刑執行を二度と行なわず、国連「死刑廃止条約」を一刻も早く批准することを強く求めます。またすべてのいのちを殺すことなく、すべての人間の生き直しの機会を保つため、重ねて死刑制度の全国的議論と死刑廃止を今、強く求めます。

2025年7月2日

日本基督教団京都教区  
「教会と社会」特設委員会

## 敗戦後80年を覚え、 いのちの道を選ぶための声明

日本基督教団京都教区に属する  
諸教会・伝道所、関連団体の皆さま

### この歴史の節目に

2025年をもって、この国は敗戦後80年の節目を迎えます。

しかしこの80年目に先だって、世界は大きな危機を経験しています。ウクライナではロシアの侵攻が続き、パレスティナのガザではイスラエルによる民族浄化の殺戮が続き、つい先頃はアメリカによって大量破壊兵器の開発阻止を名目とした一方的な攻撃がイランに対して加えられました。しかも驚くべきことには、第二次大戦以降の世界において戦争を避けるための秩序を支えてきたはずの国々が、一方的に行使された軍事的暴力を目にしてなお、これを制止する素振りさえ見せていません。今や世界中の権力者たちが、軍備増強の必要性を大声で語るようになりました。

そして、今やこのような抑止を失った私たちの社会は、ネット上の匿名原則も相まって、言いつばなしの無責任が放置されるようになりました。その結果、私たちが大切に思い、またそれによってこの国に住むすべての人々の権利を守り続けてきた原則が、軽蔑と冷笑のもとに置かれつづけています。この風潮は、私たちが証しし宣教しようとしている「イエス・キリストの福音」から、社会的責任意識を骨抜きにする誘惑として、今や既に働き始めているのではないのでしょうか。平和の危機が、福音の危機であることを心に留めていただきたいのです。

### 私たちが「宝」としてきたもの

私たち、日本基督教団の諸教会・伝道所や関連団体は1969年に鈴木正久教団総会議長の名で発出している「第二次大戦下における日本基督教団の責任についての告白」を、教団の公的姿勢を示すものとして受け入れ、またこの「告白」を、限界がありつつも、教会の依るべきひとつの指針と捉えつつ、そこに示された事柄を実現するべく努めてきました。

私たちの拠り所がイエス・キリストです。同時に私たちはこの国が、民族や血に還元されるような神話ではなく、事実即ち歴史認識に根ざす共同体であってほしいと願うものです。

### 私たちが「楯」とするもの

今年の平和聖日の前に、私たちは参議院の選挙結果を知ることになるでしょう。その結果によっては、憲法の空洞化や、この国の軍事大国化はますます酷くなるかもしれません。しかし私たちは、この時代・この国に、神の民として生まれあわせたことを、後悔したくないと思っています。どうかこの国の、神の民のひとりとして責任を全うしてまいりましょう。私たちには何ができるのか。平和を実現するために、私たちには何ができるのか。それが、京都教区に連なる人々、お互いの間に見えるときに、平和を願う祈りは必ず一つの実を結ぶと信じて止みません。

2025年7月11日

日本基督教団京都教区  
「教会と社会」特設委員会

2025～2026年度 常置委員会・各部・常設委員会・特設委員会・小委員会

(長)は委員長、(副)は副委員長、(書)は書記、(会)は会計、(監)は会計監査。

**常置委員会**

(議長) 横田明典(近江金田)  
 (副議長) 小笠原 純(平安)  
 (書記) 浅野献一(室町)  
 (信徒常置委員)  
 今井恵一(丹波新生) 上田佳子(大津)  
 高田 緑(同志社) 谷村耕太(水口)  
 冨増献兒(西小倉めぐみ) 原田 潔(大津東)  
 堀井 忠(京都丸太町) 松野正信(世光)  
 山下容子(石山)  
 (教師常置委員)  
 新井 純(世光) 安藤昭良(福知山)  
 熊谷沙蘭(桂) 平山正道(大津)  
 堀江有里(巡回教師) 山下瑞音(東舞鶴)  
 横田法子(草津) 米倉 渚(物部)

**1 宣教部**

(長) 俣田浩一(西陣) (書) 西村二郎(鴨東)  
 (会) 山下維久子(向日町) (副) 今井圭介(大津東)  
 (副) 山下瑞音(東舞鶴) (副) 小笠原 純(平安)  
 新井 純(世光) 大坪信章(石山)  
 片岡広明(丹波新生) 川上 信(八日市)  
 永島鉄雄(草津) 堀江有里(巡回)  
 森谷千博(京都復興) 横田明典(近江金田)

**2 教師部**

(長) 熊谷沙蘭(桂) (副) 安藤昭良(福知山)  
 (書) 川上幹太(八幡ぶどうの木)  
 (会) 今井圭介(大津東) (監) 大坪信章(石山)  
 井上正道(長浜) 内山友也(京都葵)  
 小笠原 純(平安) 馬場詩織(京北)

**3 財務部**

(長) 松田 規(福知山)  
 (書) 冨増献兒(西小倉めぐみ)  
 東 晃(城陽) 井上勇一(洛南) 原田 潔(大津東)  
 柳井一朗(洛西) 常時陪席：教区三役

**4 人事部**

教区三役

**5 アジア宣教活動委員会 (活動休止中)**

**6 教職謝儀委員会**

(長・書) 小笠原 純(平安) 今井圭介(大津東)  
 山下瑞音(東舞鶴) 大下真弓(京都葵)  
 志賀 勉(紫野) 原田 潔(大津東)  
 松田 規(福知山)

**7 障がい者問題特設委員会**

(長・書) 永島鉄雄(草津)  
 (副) 山下維久子(向日町) (会) 吉岡るみ子(宇治)  
 (監) 松野清美(世光) 大林叡貴(京都)

**8 部落解放センター運営特設委員会**

(長) 片岡広明(丹波新生)  
 (主事) 鳥井新平(近江平安)  
 (書・会) 横田明典(近江金田)  
 (監) 奈良登貴子(草津) 井上勇一(洛南)  
 川上幹太(八幡ぶどうの木) 奈良譽夫(草津)  
 平山正道(大津) 深見祥弘(近江八幡)  
 松下道成(洛陽)

**9 「教会と社会」特設委員会**

(長) 川上 信(八日市) (副) 浅野献一(室町)  
 (書) 佐々木 結(同志社神学研究科)  
 (会) 松下道成(洛陽) (監) 大山修司(膳所)  
 安藤昭良(福知山) 桜井 希(同志社中高)  
 谷村徳幸(水口) 鳥井新平(近江平安)  
 堀江有里(巡回) 松岡由香子(教務)  
 吉居美緒(洛南)

**10 性差別問題特設委員会**

(長) 堀江有里(巡回)  
 (書) 澤田果歩(同志社国際中学校嘱託講師)  
 (会) 谷本聰子(今津)  
 (監) 谷口ひとみ(八幡ぶどうの木)  
 西原ももこ(教務) 馬場詩織(京北)

**11 「合同」問題特設委員会**

(長)新井 純(世光) (書)片岡希望(紫野)  
 (会)横田明典(近江金田) (監)小笠原 純(平安)  
 菅根信彦(同志社) 長尾恭佳(同志社神学研究科)

**12 不登校・ひきこもりの青少年と家族と共に歩む特設委員会**

(長)西村二郎(鴨東) (書)横田明典(近江金田)  
 (会)片岡広明(丹波新生) (監)横田法子(草津)  
 玉置千恵子(京都葵) 早瀬和人(宇治)

〈以下、常置委員会の小委員会〉

**1 セクシュアル・ハラスメント問題小委員会**

(長)横田法子(草津)  
 (書)澤田果歩(同志社国際中学校嘱託講師)  
 (会)富増献兒(西小倉めぐみ)  
 富田成美(京都丸太町) 馬場詩織(京北)  
 堀江有里(巡回) 横田明典(近江金田)

**2 京都教区センター運営小委員会**

(長)小笠原 純(平安) (書)柳井一朗(洛西)  
 浅野献一(室町) 井上勇一(洛南) 菅 恒敏(京都)  
 鳥井新平(近江平安) 三好照孝(京都)  
 横田明典(近江金田)

**3 災害対策小委員会**

(長・書)横田明典(近江金田) 浅野献一(室町)  
 新井 純(世光) 今井圭介(大津東)  
 小笠原 純(平安) 山下瑞音(東舞鶴)  
 松田 規(福知山)

**4 韓国基督教長老會大田老會との交流小委員会**

(長)大山修司(膳所) (書)井上正道(長浜)  
 (会)永田真由美(丹波新生) 赤岩英里香(京都復興)  
 井殿 謙(京都) 井上勇一(洛南)  
 金 度亨(キム・ドヒョン)(ゴスペルハウス)  
 韓 亨模(ハン・ヒョンモ)(丹後宮津)  
 横田明典(近江金田)

**5 教区史編纂小委員会**

(長・書)横田明典(近江金田) 浅野献一(室町)  
 井上勇一(洛南) 小笠原 純(平安)  
 柳井一朗(洛西)

**6 教区宣教基本方針・方策検討小委員会**

(長・書)横田明典(近江金田) 浅野献一(室町)  
 小笠原 純(平安) 谷村耕太(水口)  
 原田 潔(大津東)

**7 クラッパードイン小委員会(仮)**

(長・書)横田明典(近江金田) 浅野献一(室町)  
 小笠原 純(平安) 木村良己(一般財団法人クラッ  
 パードイン代表理事、紫野)

**8 広報研究小委員会**

(長)山下瑞音(東舞鶴) (書)井上正道(長浜)  
 後宮 嗣(世光) 宇田慧吾(丹波新生)  
 熊谷沙蘭(桂) 山下恵都子(東舞鶴)  
 横田明典(近江金田)

**編集後記**

○今総会期より、常置委員会をはじめ、いくつかの委員会で、委員の顔ぶれが大きく変わった。教区の比較的若い世代へ、また常置委員会でもジェンダーバランスが改善され、両丹地区の方も多く選ばれた。○2020年からのコロナが弱りつつあった教会を、様々な面でさらに大きく弱らせた困難な5年間。今なお教会、地区、教区が、その弱り、痛みから回復していない中ではあるが、この教区の働きを担う顔ぶれの変化に新しい風、新しい時代の到来を感じるというのは、言いすぎであろうか。○「見よ、新しいことをわたしは行う。／今や、それは芽生えている。／あなたたちはそれを悟らないのか。／わたしは荒れ野に道を敷き／砂漠に大河を流れさせる」(イザヤ43:19)。むしろ痛みの中、困難の中から立ちあられる「新しい世界」を主なる神にあって待ち望みたい。○今期から新たに「広報研究小委員会」、「クラッパードイン小委員会」の二つの委員会もはじまる。また、新たに教区に加わってくださった教師の方々と、主において、新たに生きた教区を共に歩んでいきたい。

◆最後に、今年度教区ニュース1号の発行のみ、しかも大幅に遅れて年度末での発行となり、まことに深謝するばかりです。どうぞお許してください。(K)